

# クロスワードの世界

## クロスのいろは

世界初のクロスは1913年12月21日、大手のニューヨーク・ワールド新聞社の日曜版に掲載されました。発明者は記者アーサー・ウィン。この新しいパズルは読者の熱い支持を獲得し、連載されるようになります。

社が1925年3月8日に日本初のクロスを掲載しています。当時のタイトルは「新知的遊戯『嵌め字』クロス・ワード・パズルの新題」。苦心して訳したであろう「嵌め字」がいい味を出しています。右にその日本初のクロスを掲載したので、ぜひ挑戦してみてください。

## クロスのルール

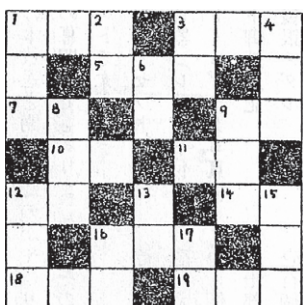
黒マスを設置するときのルールには  
①四隅には黒マスが入ってはいけない  
②上下、左右に黒マスが連続してはいけない  
③黒マスによって分断された部分を作ってはいけない

また盤面に入る単語には  
①同じ単語を入れない  
②固有名詞を多用しない  
③単語の一部で、その一部だけでは意味を成さない単語を使わない  
などのルールがあります。自分で作る際には気をつけましょう。

## クロスの歴史

12月21日はクロスワード（以下クロス）の日です。今回はそれを記念して、クロスワードの作り方や歴史、雑学を紹介します。手作りクロスを年賀状に添えると楽しいかも!?（くじら）

## は嵌め字に挑戦



### 【鍵】

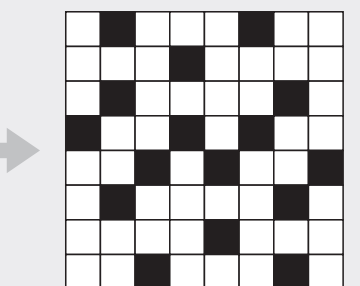
| 縦             | 横             |
|---------------|---------------|
| 1 臭い屁をする動物    | 1 初夏の果物       |
| 2 伸縮自在な物質     | 3 生魚の料理       |
| 3 魚の名の一つ      | 5 悪い齒         |
| 4 海中に突出した陸地   | 7 嬰兒の飲み物      |
| 6 猛獣          | 9 一晝夜の区分      |
| 8 水邊の鳥        | 10 雨の日路上にあるもの |
| 9 神社にあるもの     | 11 武器         |
| 12 火力で動く乗物    | 12 軽い木材       |
| 13 祭日に掲げるもの   | 14 四國の國名      |
| 15 口から垂れる液體   | 16 火をともし虫     |
| 16 書物         | 18 湯を沸かす道具    |
| 17 家に人のあいないこと | 19 春咲く草花      |

## STEP 1 枠を作る



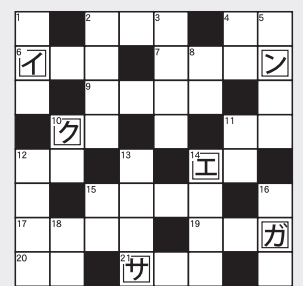
クロスの枠（グリッド）のマスを決めます。らいふすてーじでは8×8マスを採用していますが、5×5や7×7でもいいでしょう。

## STEP 2 黒マスを配置する



上の黒マスのルールに従って黒マスを配置します。近年のらいふすてーじのように、中心点から点対称になるように配置すると美しいデザインとなります。

## STEP 3 数字を振る



縦か横の先頭になっているマスに数字を振ります。その順番は左上から右下です。また解答と解答のマスの位置を決め、解答のマスを二重マスにします。

## 海外のクロス

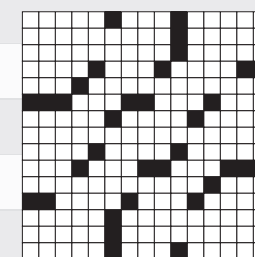
クロス発祥の地アメリカ。アメリカでは世界的なクロスのブームに先駆けて、1924年にクロスの大ブームが起こります。このクロス熱は数多くの興味深いエピソードを残しました。例えば、クロスばかりして家庭を顧みない夫を妻が告訴し、夫にクロスは1日3間までという判決が出たという話があります。

右のアメリカ式のクロスの枠（グリッド）は日本式のグリッドと大きく異なっています。日本式とアメリカ式の黒マス

のルールは基本的に同じですが、アメリカ式では黒マスが上下、左右に連続してもいいことになっています。しかし、アメリカ式には

- ①黒マスは全体の6分の1まで
- ②黒マスは点対称に配置する
- ③上下または左右を黒マスに挟まれた白マスがあつてはならない

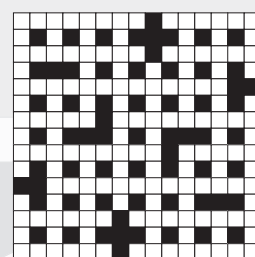
の3つのルールが追加されます。これによって対称的で美しいデザインのグリッドができるのです。



アメリカ式のクロスに興味を持たれたら、図書館で『ニューヨーク・タイムズ』を読んでみてはいかがでしょうか。

## イギリスのクロス

アメリカでクロスが流行した当初、イギリスのある大手新聞は「クロスというつまらない行為に時間を使うアメリカ人



を哀れむ」と皮肉りました。しかし、そのイギリスでも1924年にクロスが初めて新聞に掲載され、ブームが巻き起こります。ある図書館がクロスのファンによる新聞の独占を防ぐために、クロスの欄を黒く塗りつぶしたほどの大流行でした。

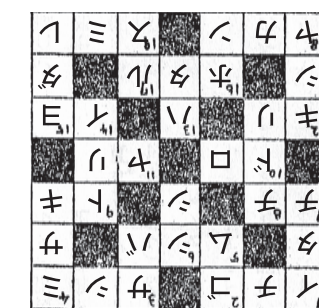
左のイギリス式のグリッドはアメリカ式と比べ黒マスが多く、カギの数が少なくなっています。これは、イギリス式のカギにはアナグラム（文字の並べ替え）などを用いた複雑な問題もあり、解くのを

に時間がかかるためです。

例えば、カギの文章が「Broken case for heroes」で、当てはめるマスが4マスだとします。「Broken」はアナグラムせよという意味なので、4文字の「case」をアナグラムし、ヒントとなる「heroes」と同じ意味の「aces」を答えとします。

ほかにも様々な工夫を凝らしたカギを楽しめるイギリス式のクロスに興味を持たれたら、図書館で『タイムズ』を読んでみてはいかがでしょうか。

## は嵌め字の答え



『サンデー毎日』1925年3月8日号より